

[エッセイ]

麗澤大学を拝辞するに当たって

藤本幸夫

慣れ親しんだ麗澤大学を去るに当たって、長いようで短かったこの五年間がさまざまな思い出とともに甦って来る。梅田博之先生の後任として、満開の桜に迎えられつつも、関東における生活体験のないままに、一抹の不安を抱きながら赴任したが、同僚や職員の方々の温かい御心に、その心配は吹き飛んだ。

赴任直後に谷川の研修寮で新入生と語り合い、また廣池博士終焉の地を拝見申し、その後先生の思想や御覚悟・遺品等を知るに及んで、畏敬の念が深まった。今もなおその遺徳と遺風が色濃く残っているのを、日々感じている。奉職前に大学に伺った時、中・高校の学生から次々と挨拶されて驚いたことが思いだされる。

筆者は大学院進学後、朝鮮学に携わるようになり、対馬宗氏の旧蔵資料に接するようになった。宗氏資料に関する拙論を学会誌に載せるために誰方に御許可を得ればよいかと、地元の方に伺ったところ、麗澤大学の宿舎にお住まいの宗武志先生をご紹介いただいた。早速連絡を差し上げたところ、御丁重なる玉翰と共に御許可をいただいた。それから三十余年後にこのような御縁が生じるとは思いもよらなかった。残念ながら先生に拝眉は叶わなかったが、各方面から立派なお方だったと承っている。御令息宗中正氏とは、対馬のシンポジウムでお目にかかったことがあり、その後麗澤大学で同僚となり、何かと御配慮いただいている。

在任五年中には大学当局及び教職員の皆様方から分に過ぎた殊遇をいただき、深く感謝している。赴任前年の学会も含めて、廣池博士記念講堂で七度の朝鮮・韓国学関係の学会を開くことを許された。国内外の参加者は等しく研究環境の良さと温かい心遣いに感動しておられた。またその都度大学当局の財政的御助成と種々御配慮をいただいた。

様々な国から来た向学心に富んだ留学生などと共に学び得たことも、忘れ難い思い出である。経済的な問題・生活習慣の違いなど、種々の困難に立ち向かいながらも研究に努める態度には頭が下がった。いずれはこれら学生が両国の友好に大きく寄与してくれることになるであろう。

教歴の最後をこのように御好意に包まれて過ごし得たことは、誠に我が身の幸い、これに過ぎるものはない。廣池博士の余徳に与ったものと言えよう。

退職を目前にした二月二十五日には、馴染みの深い廣池博士記念講堂で記念シンポジウムを開いていただいた。パネリストは私と学問的因縁の深い方々で、大変思い出深く、有意義な会であった。滝浦真人言語研究センター副センター長を主とする関係各位に御礼申し上げる。

廣池幹堂理事長・梅田博之前学長・中山理学長・田中駿平常務理事を初めとして、麗澤大学で御縁を結んだ方々に厚く御礼申し上げ、更に学園の益々の御発展を衷心より祈念申し上げます。去りがたい麗澤の地を拝辞する。

藤本 幸夫 教授 略歴・主要業績

略歴

学 歴

- 1965年 3月 京都大学文学部卒業（言語学専攻）
1965年 4月 京都大学大学院文学研究科修士課程（言語学専攻）入学
1967年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
1967年 4月 京都大学大学院文学研究科博士課程（言語学専攻）入学、休学して
渡韓、ハングル学会研究員（1968年2月まで）、韓国政府招
聘留学生としてソウル大学校文理科大学言語学科研究員（196
8年3月至1970年2月）
1970年 4月 京都大学大学院文学研究科博士課程復学
1973年 3月 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
1973年 4月 京都大学大学院研究員（中国語・中国文学専攻）
1974年 4月 日本学術振興会奨励研究員として京都大学大学院研究員（言語学専
攻）

職 歴

- 1975年 4月 大阪大学文学部助手（国語学講座）
1978年 4月 富山大学人文学部助教授（朝鮮語・朝鮮文学コース）
1989年 1月 富山大学人文学部教授（朝鮮語・朝鮮文学コース）
2007年 3月 富山大学定年退職（名誉教授）
2007年 4月 麗澤大学大学院教授
2010年 4月 同上大学言語研究センター長

その他、京都産業大学・同志社大学・花園大学・京都府立大学・京都大学人文科学研究所・
東京大学東洋文化研究所・九州大学・東京外国語大学・東北大学・広島大学・福井大学・
熊本大学・放送大学（富山校）非常勤講師、国立民俗学博物館・東京外国語大学アジア・
アフリカ言語文化研究所共同研究員

所属学会 及び 社会活動等

朝鮮学会会員・常任幹事・編集委員・副会長、日本言語学会会員、日本書誌学会会員、ハ
ングル学会（韓国）、国語国文学会（韓国）、韓国書誌学会（韓国）、東洋文庫研究員、
東方学会会員・評議員、朝鮮史研究会会員、新村出記念財団監事、国家図書館出版社『版
本目録学刊』学術顧問（中国）

受 賞 歴

- 1987年 日本翻訳出版文化賞（『韓国絵画史』による）
2006年 橋本循記念会 第16回蘆北賞（著書部門 日本）
2007年 瑞松韓日学術文化賞（韓国）

- 2007年 宝冠文化勲章（韓国政府）
2007年 東崇学術賞（功劳賞 韓国）
2008年 第一回岩瀬弥助記念書物文化賞（日本）

主要業績

単 著

『日本現存朝鮮本研究（集部）』 京都大学学術出版会 2006年

共 著

1. 「「中」字攷」 『論集 日本語研究（二） 歴史編』 明治書院 1986年
2. 「古代朝鮮の言語と文字文化」 『日本の古代』14 中央公論社 1988年
3. 「朝鮮童蒙書 漢字本『類合』と『新增類合』について」 『アジアの諸言語と一般言語学』 三省堂 1990年
4. 「『北征録』について」 『東北アジアの歴史と社会』 名古屋大学出版会 1991年
5. 「韓国の訓読について」（朝鮮語） 『国語史資料と国語学の研究』 文学と知性社（韓国、ソウル） 1993年
6. 「印刷文化の比較史」 『アジアのなかの日本史』VI 東京大学出版会 1993年
7. 「清朝朝鮮通事小攷」 『中国語史の資料と方法』 京都大学人文科学研究所 1994年
8. 「朝鮮版『白氏文集』攷」 『白居易研究講座』6 勉誠社 1995年
9. 「高麗大藏経と契丹大藏経について」 『中国仏教石経の基礎的研究—房山雲居寺石経を中心に—』 京都大学学術出版会 1996年
10. 「日本刊本『千字類合』について」（朝鮮語） 『李基文教授停年退任記念論叢』 新丘文化社（韓国、ソウル） 1996年
11. 「書（高麗以前）」 『世界美術大全集』東洋編10 小学館 1998年
12. 「陳侃撰『使琉球録』解題」・「書籍を通じてみた朝鮮と琉球の交流」 『使琉球録解題及び研究』 榕樹書林 1999年
13. 「朝鮮時代の書」 『世界美術大全集』東洋編11 小学館 1999年
14. 「日本現存内賜本について」 『21世紀国語学の課題』 月印（韓国、ソウル） 2000年
15. 「朝鮮本の刊行部数について」 『韓日語文学論叢』 太学社（韓国、ソウル） 2001年
16. 「朝鮮印刷のパイオニア」 『印刷博物誌』 凸版印刷株式会社 2001年
17. 『五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究Ⅰ—建仁寺両足院所蔵本を中心に—』 基盤研究(B)研究調査報告書 研究代表者 興膳宏 2008年
18. 『建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究—建仁寺両足院聖教目録Ⅱ』 基盤研究(B)研究調査報告書 研究代表者 赤尾栄慶 2010年
19. 『建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究—建仁寺両足院聖教目録Ⅲ』 基盤研究(B)研究調査報告書 研究代表者 赤尾栄慶 2011年
20. 「蓬左文庫所蔵駿河御讓本朝鮮本の「御拵」に就いて」 『武家の文物と源氏物語絵—尾張徳川家伝来品を起点として—』 翰林書房 2012年3月刊予定

翻 訳

1. 金思燁・趙演鉉著『朝鮮文学史』（近代の部） 北望社 1971年
2. 李基文著『韓国語の歴史』 大修館 1975年
3. 安輝濬著『韓国絵画史』（吉田宏志と共訳） 吉川弘文館 1987年

論 文

1. 「朝鮮古語研究—地名を中心にして—」 京都大学大学院文学研究科 1967年
2. 「河合文書の研究—文書形式・吏読・俗語を中心として—」 『朝鮮学報』第60輯 朝鮮学会 1971年
3. 「朝鮮における『朱子語類』」 『朝鮮学報』第78輯 朝鮮学会 1976年
4. 「東京教育大学蔵朝鮮本について」 『朝鮮学報』第81輯 朝鮮学会 1976年
5. 「朝鮮版『千字文』とその地方性」 『国語国文』第46巻第4号 京都大学国語国文学会 1977年
6. 「大東急記念文庫蔵朝鮮版について（上）」 『かがみ』第21号 大東急記念文庫 1977年
7. 「大東急記念文庫蔵朝鮮版について（下）」 『かがみ』第22号 大東急記念文庫 1978年
8. 「朝鮮漢文—吏読文からの昇華—」 『語文』第34号 大阪大学国文学会 1978年
9. 「『朝鮮偉国字彙』について」 影印本『朝鮮偉国字彙』解題 雄松堂 1979年
10. 「朝鮮版『千字文』の系統」 『朝鮮学報』第94輯 朝鮮学会 1980年
11. 「李朝の文人と書籍」 『論文叢誌』 大阪大学文学部国文科田中裕先生退官記念論文集刊行会 1981年
12. 「広島市立浅野図書館蔵朝鮮本に就いて」 『書誌学』復刊新26・27合併号 日本書誌学会 1981年
13. 「宗家文庫蔵朝鮮本に就いて—『天和三年目録』と現存本を対照しつつ—」 『朝鮮学報』第99・100合併号 朝鮮学会 1981年
14. 「朝鮮版『朱子語類』攷」 『富山大学人文学部紀要』第5号 富山大学人文学部 1982年
15. 「眉巖過眼書録」 『富山大学人文学部紀要』第7号 富山大学人文学部 1983年
16. 「Preliminary survey of the languages around the Japan Sea」（共著） 『富山大学人文学部紀要』第7号 富山大学人文学部 1983年
17. 「対馬島宗氏文庫所蔵韓国本と林氏について」 『民俗文化論叢』第4号 韓国嶺南大学校民俗文化研究所 1983年
18. 「朝鮮童蒙書—漢字本『類合』攷、附影印—」 『富山大学人文学部紀要』第11号 富山大学人文学部 1986年
19. 「庚午字本『歴代兵要』攷」 『朝鮮学報』第119・120輯 朝鮮学会 1986年
20. 「李朝訓読攷其一一『牧牛子修心訣』を中心にして—」 『朝鮮学報』第143輯 朝鮮学会 1992年
21. 「朝鮮本の訂正について—『重修政和経史証類備用本草』を中心にして—」 『朝鮮文化研究』第1号 東京大学文学部 1994年

22. 「韓国の印刷出版文化と日本」(朝鮮語) 『第一回国際印刷出版文化学会論文』
清州古印刷博物館(韓国、清州) 1995年
23. 「刻工名による朝鮮刊本の刊年・刊地決定法試論」 『青丘学術論集』第8号 韓国文化
研究振興財団 1996年
24. 「日本にある韓国本とその特徴について」(朝鮮語) 『民俗文化論叢』第16号 韓国
嶺南大学校民俗文化研究所 1996年
25. 「朝鮮書誌学の諸問題」 『朝鮮学報』第163輯 朝鮮学会 1997年
26. 「対馬豊慶龍院蔵朝鮮伝来薬師如来坐像胎蔵朝鮮資料について」 『朝鮮学報』 第17
6・177輯 朝鮮学会 2000年
27. 「朝鮮本の識語について」 『青丘学術論集』第16号 韓国文化研究振興財団 2000
年
28. 「日本の活字印刷」(朝鮮語) 『第三回清州国際印刷出版文化学会論文集』 清州古印
刷博物館(韓国、清州) 2000年
29. 「刻手名による朝鮮刊本の刊年・刊地決定について」 『東方学報』第73号 京都大
学人文科学研究所 2001年
30. 「朝鮮刊本の刊年・刊地推定について」 『朝鮮史研究会論文集』第39号 朝鮮史研
究会 2001年
31. 「朝鮮家刻本刊行経緯攷」 『平成11～平成14年度科学研究費補助金(基盤研究A)研
究成果報告書』 2003年
32. 「朝鮮版『唐駱賓王詩集』攷」 『朝鮮学報』第199・200輯 朝鮮学会 2006年
33. 「日・韓両国における童蒙書について」 日韓人文社会科学学会『修交40周年記念
日韓学術交流の現状と展望』 2006年
34. 「朝鮮版『千字文』について」(朝鮮語) 『国語史研究は何処まで来ているか』 韓
国延世大学校国学研究院 2007年
35. 「大英図書館所蔵朝鮮本について」(エリザベス・マッキロプ氏と共著) 『朝鮮学報』
第215輯 朝鮮学会 2010年
36. 「国立ギメ東洋美術館所蔵朝鮮本について」 『朝鮮学報』第215輯 朝鮮学会 2011
年
37. 「Old Korean Books Preserved in Japan」 『MEMOIRS OF THE RESEARCH
DEPARTMENT OF THE TOYO BUNKO』69 2012年3月刊予定

その他

1. 「朝鮮と漢字」 『月刊 言語』第6巻10号 大修館 1977年
2. 『高樹文庫資料目録』(中国書・和書担当) 富山県教育委員会 1979年
3. 「大東急記念文庫所蔵『千字文』(影印)」 『朝鮮学報』第93輯 朝鮮学会 1979
年
4. 「大東急記念文庫所蔵『千字文』索引」 『朝鮮学報』第97輯 朝鮮学会 1980年
5. 「宮内庁書陵部所蔵『千字文』索引」 『朝鮮学報』第102輯 朝鮮学会 1982年
6. 「朝鮮の印刷文化」 『月刊韓国文化』5-9 韓国文化院 1983年
7. 「校書館推治の件—『内訓』を中心として—」 『汲古』4 汲古書院 1983年

8. 「総合図書館蔵・朝鮮本、特に阿川文庫に就いて」 『図書館の窓』 東京大学附属 図書館 1985年
9. 「朝鮮のことば遊び」 『ことば遊びの民族誌』 大修館 1990年
10. 「朝鮮の漢字文化」 『しにか』 創刊号 大修館 1990年
11. 「語学的観点から見た朝鮮金石文」 『書道研究』 7月号 美術新聞社 1990年
12. 「朝鮮の活字印刷と日本の駿河活字」 『Museum Kyushu』 40号 1992年
13. 「言語」 『韓国』 新潮社 1993年
14. 『東京大学総合図書館漢籍目録』（朝鮮本担当） 東京大学総合図書館 1995年
15. 「朝鮮のことわざ」 『世界ことわざ大辞典』 大修館 1995年
16. 「日本における韓国語研究現況」（朝鮮語） 『第五回国際韓国語学術大会論集』 ハングル学会（韓国、ソウル） 1996年
17. 「朝鮮語の史的研究」 『日本語と朝鮮語』 上巻 国立国語研究所 1997年
18. 「田川文庫蔵朝鮮本について」 『アリラン通信』 14号 文化センター・アリラン 1997年
19. 「田川文庫蔵和刻本について（承前）」 『アリラン通信』 16号 文化センター・アリラン 1998年
20. 『朝鮮17世紀刊本刻工名集』 平成7～平成9年度科学研究費補助金（基礎研究C）成果報告書 1998年
21. 「關於朝鮮本」 『中国文哲研究訊』 第九卷第4期 歴史語言研究所（台湾、台北） 1999年
22. 『朝鮮朝後期刊本刻手名集』 平成11～平成14年度科学研究費補助金（基盤研究A）研究成果報告書 2001年
23. 「高麗の出版文化」 『韓国文化』 262 韓国文化社 2001年
24. 「日本所蔵韓国語資料の現状と研究動向」（朝鮮語） 韓国学振興院韓国学国際学術大会『国内外韓国学資料の保存実態と展望』（韓国 安東） 2002年
25. 「『攷事撮要』の冊板記録について」（招待発表） 第六回環太平洋韓国学国際学術大会 2002年
26. 「清溪金思燁先生の思い出」 『清溪金思燁博士追悼文集』 清溪金思燁博士追慕記念事業会 韓国博而精 2002年
27. 「日本内韓国学資料の現況」（招待講演） 韓国国史編纂委員会 2003年
28. 「重山先生と小倉進平先生」 『泰山木』 財団法人新村記念財団設立二十五周年記念文集 2006年
29. 『朝鮮朝刊本刻手名集（第一版）』 平成14～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究C）成果報告書 2006年
30. 「『日本現存朝鮮本研究 集部』について」（招待講演） 口訣学会・国語史学会共同全国学術大会 2006年
31. 『朝鮮朝刊本刻手名集（第二版）』 平成17～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究C）成果報告書 2007年
32. 『大英図書館所蔵朝鮮本目録』 平成16～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究B）成果報告書 2007年

33. 「日本伝存朝鮮仏教書」 『新アジア仏教史』 佼成出版社 2010年
34. 「韓国出版文化と日本」 『2002-2007/環日本海講演会 記録集』 鳥取県立図書館
2010年
35. 「高麗の出版文化」 『日本仏教と高麗版大蔵経』 佛教大学 2010年
36. 「東アジア全体を踏まえた訓読研究」 (金文京著『漢文と東アジア—訓読の文化圏』
の書評) 『東方』 362 2011年
37. 「古代日本語と朝鮮語」 高岡市万葉歴史館叢書24『万葉集と環日本海』 2012年3月
刊予定

